

2006年9月号

ほくし

発行所

社団法人 大阪北区歯科医師会

大阪市北区南森町1丁目4番28号

プールパール南森町205号室

TEL(06)6363-0016 FAX(06)6363-0046

平成十八年六月二十六日（月）午後七時より北区歯科医師会事務所において会員向け初級パソコン教室が開催された。北区歯科医師会では、本年一月に立ち上げたホームページに代表されるように今後IT化を推進していきたいと考えている。平成十七年八月に発足したIT化実行委員会の意



向を受けて四月十日にホームページ管理委員会（西川久義委員長）が発足し、六月一日にはホームページ内に会員専用ページの運用を開始した。また会員のより多くのホームページへの参画を促す目的で、普段パソコンに触れる機会の少ない先生方を対象として初級パソコン教室を開催した。参

北区歯科医師会・会員向け 初級パソコン教室開催

H18.6.26

加者にはそれぞれ担当の講師役の先生がつき、マンツーマンで講習を行なった。参加者（担当の講師役）は、黒川森夫会長（西川久義委員長）、奥野夏樹先生・三浦幹雄先生（大西秀威先生）、中谷勝先生（佐々木裕先生）、吉川與司雄先生（大塚俊裕先生）、高垣健太郎先生（宮崎哲先生）、吉川闊先生（高麗誠紀先生）、篠原隆一先生（大浦寿哉先生）、猪木一成先生（三輪佳子先生）、矢追秀純先生（中川晴彦先生）、井上敏治先生（須田宜之先生）、大塚禮三先生（東郷達夫先生）、能美昭夫先生（賀本方子先生）であった。

はじめに黒川会長が挨拶に立ち、「IT化推進委員会ならびにIT化実行委員会のご尽力により、本年一月一日に北区歯科医師会ホームページを立ち上げることができた。現在は新たに発足したホームページ管理委員会がホームページの管理・運営を行っている。ホームページはかなりの好評を得ており、北区歯科医師会ならびに会員のさらなるIT化推進のため、パソコン教室を開催する運びとなった。」と述べた。

続いて、西川委員長が「Word（文書作成ソフト）」

を使った文字入力の方法や検索エンジンを使った北区歯科医師会ホームページの検索方法、会員専用ページへの入り方やその内容、デジタルカメラで撮影した画像の編集およびメールへの添付方法、受信した添付画像の保存の仕方などを説明した。

その後、各ペアごとにパソコンの基本的な使い方や文字入力の方法、インターネットへの接続方法およびホームページの閲覧方法、メールの作成・送受信の方法などそれぞれ参加者のレベルにあわせて講習が行われた。講習は和気藹々として非常に和やかな雰囲気となり、予定の二時間が瞬く間に経過した。

最後に西川委員長より、「今回のパソコン教室の反響などをお聞きし、ご要望があれば続けてパソコン教室を開催したい。」との挨拶があり、講習が終了した。



パノラマ

高齢化が急速に進む日本において、熱い視線を集めているのがアメリカで一九九〇年代から始まった「アンチエイジング（抗加齢 医学）」です。

それまで、見過ごされてきた老化に伴う身体の変化に対して、アンチエイジング医学では、極論としていえば老化も病気の始まりで、制御可能な身体の変化と考え、それを前向きに食い止めようとするアプローチがなされます。具体的には、食生活の改善や運動など、老化を克服する習慣やケアを生活の中にとり入れ、若さを保つというものです。

元気で長生きすることは多くの人の願いですし、中年のみならず、若い世代でも、アンチエイジングを心がけることで、疲れにくい、病気になる、仕事や趣味に充実した毎日を送ることができそうです。つまり、病気になつてから治療するのではなく、加齢に積極的に立ち向かい、病気を未然に防ぐ、そしてより元気に健康長寿を目指すというものです。毎日、診療室で患者さんに予防の大切さを説明しているときの内容と似ていますね。（I）

論説

ーT化について思う

副会長 東郷達夫

IT (information technology) とは「情報を上手に使うための技術」と定義されている。即ち情報をどのように集め、情報をどのように加工し、情報をどのように利用するか。また、情報をどのように作成し、情報をどのように発信するか。その方法として現在一番幅広くインターネットが使用されている。

インターネットは周知のようにキーボードの操作一つで世界中の政治・経済のニュースをはじめ趣味にいたるまでUp to dateな情報を瞬時に検索閲覧でき、ショッピングなども自由に楽しめる。また、電子メール等の利用により双方の意思疎通が容易にはかれることも魅力の一つである。「世界のインターネット利用白書」によるとインターネットが社会に及ぼす影響は大きく、プラス面とマイナス面の両面がある。プラス面では、「情報検索、ネットショッピングなど生活が便利になる」、「新ビジネスが続々と登場し、産業構造が変化する」、「知識やノウハウの伝達力が向上する」

などが考えられ、マイナス面では、「情報が氾濫し、必要な情報の取捨選択が難しくなる」、「誹謗中傷、違法／有害情報の氾濫等の犯罪を助長する」、「物事を深く考える能力が低下する」などが考えられる。そして、「全体的に見て、インターネットは社会に対してよい影響をもたらしている」と肯定的に捉える人が七十五・六%となっている。データが示されている。支部においてもIT化実行委員会の努力により本年一月にホームページが立ちあがった。支部でのその効用は数々有る。例えば会員のページを利用して、従来郵便やファックスで行っていた諸々の連絡事項などがインターネットを通じて即座に配信でき、通信費の大幅削減になるメリットがある。また、各種届け出などは支部に出むくことなく、随時必要書類を検索入手、随時回答も可能である。総会や理事会などの議事録も容易に閲覧でき、支部の直近の動向を知ること利点であろう。このように書類や資料を得るばかりでなく揭示

板などを介して会員同士の情報や意見交換ができるのも魅力である。さらには、電子メールでは文字は勿論、静止画像、動画や音声までも配信でき、これを利用しレントゲンや口腔内写真などの症例を公開し互いに見解などを交わし学術的な面でも寄与する事も可能である。

また、「健康診断のお知らせ」や「歯の健康行事」のボードを使い区民に歯の知識や予防活動などの啓蒙活動も広くできる。支部のホームページは会員の内輪だけのサービスだけにとどまらず区民をはじめ一般の人々にもサービスをもたらし両面の利点を備えている。そして、実践にあたりコンピュータやモデムが必需品であり、それを扱う知識と技術が必要である。初心者の方や扱

いが苦手な方を対象に支部のパソコン教室に参加するのも早道であろう。さて、ここで少し視点を

変えてみよう。行政は「医療制度改革大綱」において平成十八年度から段階的に医療機関、審査支払機関、保険者をオンラインで結び、平成二十三年当初から原則、すべてのレセプトがオンラインで提出されるものとする旨が示された。IT化の特質を利用し一つの傘の下におき、管理体制の強化を計る方向であろう。我々としては何か見えない枷がはめられ、自由裁量権が制限され良質な医療の提供に懸念を抱かざるを得なく、諸手を上げて賛成できるであろうか。同時に個人情報保護の漏洩にも危惧するところである。言い換えれば、こ

の方法は行政側にとつては大変都合の良いものであるかもしれないが、反面我々にとっては必ずしも都合の良いものとは断言できないように思われる。

ITについて我々の関係する分野からごく一部を例に挙げてみた。IT化は今後一段と進歩しながら広く普及し、複雑多岐な現代社会にさらに影響を与えることは必至である。しかし、肝要なことは得られた情報の価値観や信頼性の判断は個人に委ねられ、そのためには確かな判断尺度を持つことを忘れてはならない。また、ITの利用は一方では大きな利益があるが、他方では大害を伴う危険があり、諸刃の剣になることも肝に銘じておきたい。

医療保険ゼミナール

H18 7.27

去る七月二十七日(木)、北歯事務所に於いて平成十八年度第二回医療保険ゼミナールが行われました。当ゼミナールは厳しい保険診療のルールの中で少しでも点数アップにつながるような算定方法を検討していく勉強会です。今回は国保担当審査委員

の天羽先生に御講演をお願いしました。まずこの十月から発行が義務化される「内容のわかる領収書」ですが、保険者から患者側に満足度意識調査として調査票が配られることが決まっております。必ず発行されたしとのこと

です。また歯周疾患指導管理料(P指)等に代表される患者提供文書の発行状態

も同様に調査の対象になっているということです。本題の算定方法では歯周疾患処置(P処)や暫間固定(Fix)等を忘れずに算定していくことが大事と強調されました。また二転三転した摘要記載項目もようやく定まった見解ができてきた頃だったので非常に有効なゼミナールでした。(医療保険部・樋口春彦)

よい歯のコンクール

H18.5.11

北歯ホームページのお知らせ

平成十八年五月十一日(木)十四時から北区保健福祉センター一階にて第五十五回よい歯のコンクール北区代表選考会が行われた。今回、北区北からの審査対象者は少なく、やや寂しい選考会となった。また北区北支部からは東郷副会長と木下理事が審査員として出席した。(地域医療部・木下秀人)

編集後記

今号は期せずして「IT特集号」となりました。東郷副会長の文面にもありますように、いかに我々が使いこなすかと言う事です。